

2

秋から冬の感染症

秋になって気温が低下し、空気が乾燥してくると、ウイルスが原因となる感染症が増えてきます。よく知られているのがインフルエンザです。毎年、12月～3月にかけて流行します。流行前にワクチンを接種する、こまめに手を洗う、マスクをすることで予防します。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎は毎年11月ごろから患者数が増加します。ノロウイルスには有効なワクチンはなく、手洗いやうがい、口からの感染を予防することが大切です。

大人の鼻かぜの原因となるのがライノウイルス。ライノウイルスの特効薬はないので、手洗いやマスクで予防し、子どもに感染させないように注意しましょう。

2歳までの子どものかぜはRSウイルスが原因となることが多く、発熱、鼻みず、鼻づまりなどの症状が数日間続きます。

秋に流行する感染症のほとんどは、手に付着したウイルスが口に入り、のど(喉)の粘膜について発症するという経路をたどります。

3

どんなふう to 感染するの？

感染には、大きく分けて3つの感染のしかたがあります。それは、接触感染、飛沫(ひまつ)感染、空気感染です。

菌やウイルスが手やモノ(例えば手が触れたドアノブなど)を通じて感染するのが、接触感染です。通常、手についただけでは感染しませんが、その手で自分の口や目を触ったりすることで体に入ってきて感染してしまいます。

菌やウイルスを持った人のせきやくしゃみなどが飛んで、別の人の鼻やのどなどの粘膜にくっついて感染してしまうのが飛沫感染。飛沫とは、くしゃみなどのしぶきのことです。さらに、空気中をただよっている菌やウイルスを吸ってしまうことで感染する、空気感染というものがあります。

